

まんさく

第266号

発行
特別養護老人ホーム光寿苑
まんさく編集委員会
和賀郡西和賀町湯本30-76-1
TEL 0197-84-2526
koujhu@fancy.ocn.ne.jp
題字 元理事長 太田 祖 電



密を避けるため、25日と31日の2回に分けての研修会実施

実際の事例を他職種ケースワーク
事故防止・対応研修
《令和3年5月25日、31日》

昨年度は、すべての苑内研修を書面読み合わせ方式で実施したが、今年度は感染対策をしっかりと取り、た上で対面型も取り入れる計画を立てた。

今回は、事故防止・対応研修となったが、実際に苑内で発生している現在取組み中の事例2件について、グループ単位で意見交換する形をとった。

通常、ひやりは、この対応策はユニット単位で介護職員中心に検討が成されているが、今回の研修の班員は、介護・看護・相談員・事務員・調理員といった多職種が入り交じったもの。それまでにはない見方や捉え方が出される新鮮さの中で、これまでですでにケースワークしてきた介護職員にも新たな発見をもたらす良い機会になった様子。

さらに、この研修で出された捉え方や対応案を、該当する現場ユニットにプレゼンテーションする画期的な仕掛けである。プレゼントされた対応案により、課題解決の糸口となればステキである。

その人を知ろうとするとところから関わりは豊かに

【事務】「①事務部門」 ☆氏家洋也☆

法人キーワード	2020年度共通のキーワードは 『観る』		
2020年度の最終的イメージ	テーマ	様々なことに観る姿勢を持ち、生きた言葉を交わそう	
	理想像	目標 ①	目標 ②
		下半期 会話をしている相手の方の表情を観る	価値観の違いを認め合って相手の良い点を観る目を持ち、前向きになれる言葉を交わす。
具体的な取組み (いつ、何を、どのように)	①話し掛けられた時など相手の気持ちを考えることも含め、その方の表情をきちんと観て会話するよう心掛ける。	①裏表のない姿勢で、相手を偏った見方や先入観で観ていないか。常に自分と向き合っていく。 ②自分自身の言葉や行動が観られていることを忘れずにお年寄りやご家族に、また職員へも接していく。	
2020年度の検証	<p>【下半期検証】</p> <ul style="list-style-type: none"> *相手の方の気持ちを考えながら対応したが、その気持ちをくみ取って次の行動に移すことができなかったと思う。 *忙しそうだと思い、言葉を交わすことを避けてしまう場面があった。 *自分の言葉や行動を常に意識することができた。 *電話でのやり取りが増え、電話越しでの印象を気にしながら対応することに難しさを感じた。 *コロナ禍により事務所で対応することが増えた。オンライン面会での調整や、業者とのやり取り、来客対応等。普段にはないことで、対応力が求められ難しさを感じた。 		



法人キーワード	2021年度共通のキーワードは 『知る』		
2021年度上半期のイメージ	テーマ	自ら出向き相手を知ろう	
	理想像	目標 ①	目標 ②
		部署やユニットに出向き、自分の目で観て知ろう。	コロナ禍にある今、家族との繋がりを今一度大事にしたい。
具体的な取組み (いつ、何を、どのように)	①オンライン面会のより良い環境づくり ⇒お年寄りと家族の面会を通して、その人に合った形を知る。 ②部署やユニットからの要望などの実現に向け、より良いものにするため、自ら出向き現状を知る。	①ご家族からの電話対応の際、ご家族の想いを知る。 ②直接会えないからこそ、苑の様子をホームページ等により家族に知ってもらえるよう取り組む。	

令和3年度の光寿会共通のキーワードは『知る』

【生活】「⑦介護部門…こまち通り」 ☆金子利加子☆

法人キーワード	2020年度共通のキーワードは『観る』					
2020年度の最終的イメージ	テーマ	お年寄りと目線を合せて「観る」				
	理想像	<table border="1"> <tr> <th>目標 ①</th> <th>目標 ②</th> </tr> <tr> <td>お年寄り一人ひとりに向き合っていく</td> <td>今日が最期の日になっても後悔しない介護 お年寄りに安心した暮らしを送って頂く</td> </tr> </table>	目標 ①	目標 ②	お年寄り一人ひとりに向き合っていく	今日が最期の日になっても後悔しない介護 お年寄りに安心した暮らしを送って頂く
	目標 ①	目標 ②				
お年寄り一人ひとりに向き合っていく	今日が最期の日になっても後悔しない介護 お年寄りに安心した暮らしを送って頂く					
具体的な取り組み <small>(いつ、何を、どのように)</small>	<p>①自分がされて嫌な介護はしない。 【常時】</p> <p>②仕事に入る前は、気持ちを整える。 【毎日】</p> <p>③身体の苦痛を軽減する工夫をしていく。 ⇒職員が体験をし、その状態を確認する。 【通年】</p> <p>④お年寄りの動作・時間軸に合わせる。 ⑤報告連絡相談をしっかりとっていく。</p>	<p>①言葉を交わす時間を大切にする。 【その都度】</p> <p>②ドライブや外出を増やし、四季を感じてもらったり、気分転換を図る。 【随時・通年】</p> <p>③日々の生活や様子を写真に残していく。 ⇒2カ月に1回ペースでプリントアウト</p> <p>④気になるお年寄りについては、ユニット内でケアカンファレンスを開き、見直し・共有していく。</p>				
2020年度の検証	<p>『目標①について』 *概ねできたと思う。 ⇒③については、色々取り組んだが成果には中々結びつかなかった。 ⇒⑤については、上半期にヘルプに頼る等の人員不足により連絡が行き届かなかった事が課題となったが、最終的には「報・連・相」を心掛け、業務がスムーズに出来ていたと思う。</p> <p>『目標②について』 *概ね出来ていたと思う。 *何人かのお年寄りをご逝去されたがそれぞれ良いお別れができたと思う。 ⇒②については、コロナ禍でも“少しでも外の空気を…”と思っていたが中々実現できなかった。一方で、季節の行事等により四季を感じてもらう事は出来たと思う。 ⇒③については、写真をプリントアウトして写真集を作成。ご家族にも喜んで頂けたと思う。</p>					



法人キーワード	2021年度共通のキーワードは『知る』					
2021年度上半期のイメージ	テーマ	お年寄りと目線を合せて思いを「知る」				
	理想像	<table border="1"> <tr> <th>目標 ①</th> <th>目標 ②</th> </tr> <tr> <td>お年寄り一人ひとりに向き合っていく</td> <td>今日が最期の日になっても後悔しない介護 お年寄りに安心した暮らしを送って頂く</td> </tr> </table>	目標 ①	目標 ②	お年寄り一人ひとりに向き合っていく	今日が最期の日になっても後悔しない介護 お年寄りに安心した暮らしを送って頂く
	目標 ①	目標 ②				
お年寄り一人ひとりに向き合っていく	今日が最期の日になっても後悔しない介護 お年寄りに安心した暮らしを送って頂く					
具体的な取り組み <small>(いつ、何を、どのように)</small>	<p>①自分がされて嫌な介護はしない。 ②仕事に入る前は、気持ちを整える。 ③身体の苦痛を軽減する工夫をしていく。 ⇒職員が体験をし、その状態を確認する。 ④お年寄りの動作・時間軸に合わせる。 ⇒「待つ」という心のゆとりを持つ。 ⑤報告連絡相談をしっかりとっていく。</p>	<p>①言葉を交わす時間を大切にする。 ②日々の生活や様子を写真に残していく。 ⇒その時の状況が分かるように、撮影の仕方を工夫する。 ⇒3カ月に1回ペースでプリントアウト ⇒DVDを作成していく。</p> <p>③オンライン面会等を勧め、家族と会う時間を創っていく。</p> <p>④気になるお年寄りについては、ユニット内でケアカンファレンスを開き、見直し・共有していく。</p>				

『今生より往く』

大切に育て上げた子孫に囲まれながら

家族の幸せを何よりも願い続けていた母



小森スモさん【95歳】

藤原トシ子さん【94歳】

心が強く、いつも穏やかで皆さんを気づかうやさしいスモさんでした。控えめな中にも、とても良い影響を与えて下さいました。子～ひ孫のみんなに愛されていたスモさん。一緒に過ごせた事、忘れません。ありがとございました。

《工藤美加子》

穏やかでニコッと笑顔がとてもチャーミング！一方が我慢強い方でした。家では、3人の孫さんがトシ子さんとは夜一緒に寝る事の取りあいをしていたとの事。いつも家族の幸せを手を合わせ願っていたお姿が印象的で、ステキでした。

《金子利加子》

職員募集中

看護職員（お年寄りの健康を守ります）

介護職員（お年寄りの暮らしを守ります）

調理職員（お年寄りの食を守ります）

フルタイムからパートタイマーに至るまで働き方は様々あります。

【例えば…】

8時30分～10時30分〔2時間のみ〕

検温・点眼・インスリン注射等、看護師の補助的役割

まずはお電話を！0197-84-2526



☆働きながら必要な国家資格が取得できます☆

想... 災害を捉える ~大阪から発信いたします②~

『なぜ防災研修をするのか』 大阪市・松岡由美 さん

前月号より連載スタートして頂くのは、3.11をきっかけに防災士資格を取得し、防災の精神を世間に発信されている大阪府の松岡由美さんです。ごゆるりのご拝読ください。

なぜ防災研修をするのか

現在、私は当事者家族・相談員、防災士の立場から防災に関する講演活動等を行っています。被災地へ行くまではマニュアル作成や訓練も、上司任せで主体的に考えてはいませんでした。

しかし、ご縁あって被災地に寄せて頂き、「マニュアルはあるが、法人全職員に周知できていない。マニュアルも有るだけでばたばたの監査対策であり、ただの紙切れではない。緊張感のない形骸的な訓練では意味がない。本気の避難訓練をしなれば、利用者の命どころか、自分の命さえ守れない」という危機感が芽生えました。

必要なのは、マニュアルでも訓練でもない。「要りますよ！」
「防災のスペシャリストも要らない。必要なのは、本気で防災に取り組むという一人一人の「覚悟」と動機付けだと感じて、仲間とともに防災に取り組む続けてきました。」

「何故防災研修をするのか」
「防災の取組みをする意味を理解

して、危機感を持ち、職員一人一人が主体的に行う事が必要だと思います。なぜなら、防災の取組みは「命を守る」に重責があるからです。講演会では必ず、以下の目的をお伝えしています。

- ①「できる」に「やれる」に「知ってる」を増やす。
- 普段できていない事が、非常時にできるわけではない。普段できている事でさえも、できないかも知れないのが自然災害の恐ろしさ。想定外を想定内にしていくために、訓練・研修などを繰返す。
- ②「自分でやる」に「考えて、動ける」力を。

自分の命と健康、生活を守る事ができるのは「わたし」。指示待ちの姿勢では、救える命も救えない。生きてこそ、家族や目の前の人の命と健康を守る事もできるかも知れない。

③リスク意識の醸成。
防災を考える事は、リスクマネジメントそのもの。日頃の実践と通っている。以上
救える命と健康を、一つたりとも失わないためにできる事を一つ

ずっ行っていく。そして、できない事を知る。訓練では、沢山失敗する方がいいと思っています。失敗は「今ある課題を表面化させ、よりよい対策の最善策を考える機会」になるからです。私は未熟な人間なので、上手くない、た時に実践を振返る事はできません。あつよか。たよか。たよか。たよか。たよか。でも失敗や課題に直面した時にこそ、我自身や実践を振り返り、多くの学びを感じ得ます。

日常の支援と防災の取組みを切り離して考えない事。この地道な方法が、防災の取組みが一番大切な事だと信じています。『続く』

社会福祉法人 ライフサポート協会所属



松岡 由美

社会福祉士として高齢、障がい分野で相談支援に従事。東日本大震災後、被災地入りしたことをきっかけに防災士を取得。防災に取り組む動機付けをテーマに地域や学校、行政や福祉職向けに防災関連の講演を続けている。
相談職とNLPプラクティショナーの視点から、コミュニケーション、支援の質や価値、接遇などをテーマでの講演も行っている。

今月の登録者の方々
16 名 様です♪

小規模多機能ホーム「ひなたぼっこ」
住宅型有料老人ホーム「湖畔の宿」

感染症対策も春よ来い♪…「ひなたぼっこの日常」



【上】利用者皆さんで近所散歩

【下】お茶会物作り

おかげさまでした

寄贈

- ★ おおしま商店 様 [湯 本]
- ☆ 高橋 修 様 [前 郷]
- ☆ 高橋 久子 様 [湯之沢]
- ☆ 菅原 康悦 様 [滝沢市]
- ☆ 小松 陽子 様 [秋田県]
- ☆ 三上 正 様 [盛岡市]



共寿会への支援

【光寿苑の新しいお仲間をご紹介します】



高橋光子 さん
*西和賀町
*大正のお生まれ

『共生の場』へようこそ♪

第44回 光寿苑家族会総会書面議決について【以下の通り承認されました】

- ① 令和2年度 事業報告及び決算について … 承認104〔加入者数134〕
 - ② 令和3年度 事業計画及び予算について … 承認104〔加入者数134〕
- 【年会費】コロナ禍の世情を踏まえ、今年度は例年の1/2減額と致します。

第91回

第91回目も前号より引き続き、光寿苑家族会地域役員の小森一彦様より頂戴致しました。



地域役員
小森一彦氏

最終になり、夫は無事帰ってきました。夫が始めた山仕事。10人

が多に乗っていた。着ている服もボロボロの人数が

ついた時、横手までの汽車に乗ったが、髪がチリチリに焼け、

泣き叫ぶ声と怖さで地獄のようだった。また、町に飛行機が焼

れれば入っても同じミと言って憲兵の指示に従わなかった。中は

秋田市が火空襲となった。母は防空壕へ。義理の兄は弾が落ちれば入っても同じミと言って憲兵の指示に従わなかった。中は

母の軌跡を探ねて②

元気です！家族会♪

前後の人夫頭をし、母は半場の飯炊きを数年やったそう。子たちが学校に入ってからは、農業をやりながら土方仕事をやって生計を助けていた。

夫が退職してからは二人揃ってがートボールに冒頭していた。盛んに励んでいた時期には、県大会出場も果たしたと思う。

また、合間にはアケビツル細工に励んでいた。大工職人の娘だけあって手先が器用で、息子の私が言うのも何だが、一番キレイな物を作っていた。

秋仕舞いが終われば、神奈川県にいる娘の所に10日ぐらい泊りに行くものだった。そして、関東地方の観光と見学を楽しんでいた。父も母も一番幸せな時間だったと思う。

母が70歳前の頃、父は以前から体調があまり良くなり、検査入院した所、3日後に先生から20日の命と診断。骨髄異形成で、あつという間の帰らぬ人となった。

母が70歳前の頃、父は以前から体調があまり良くなり、検査入院した所、3日後に先生から20日の命と診断。骨髄異形成で、あつという間の帰らぬ人となった。

母が70歳前の頃、父は以前から体調があまり良くなり、検査入院した所、3日後に先生から20日の命と診断。骨髄異形成で、あつという間の帰らぬ人となった。

母が70歳前の頃、父は以前から体調があまり良くなり、検査入院した所、3日後に先生から20日の命と診断。骨髄異形成で、あつという間の帰らぬ人となった。

母が70歳前の頃、父は以前から体調があまり良くなり、検査入院した所、3日後に先生から20日の命と診断。骨髄異形成で、あつという間の帰らぬ人となった。

母が70歳前の頃、父は以前から体調があまり良くなり、検査入院した所、3日後に先生から20日の命と診断。骨髄異形成で、あつという間の帰らぬ人となった。

母が70歳前の頃、父は以前から体調があまり良くなり、検査入院した所、3日後に先生から20日の命と診断。骨髄異形成で、あつという間の帰らぬ人となった。

母が70歳前の頃、父は以前から体調があまり良くなり、検査入院した所、3日後に先生から20日の命と診断。骨髄異形成で、あつという間の帰らぬ人となった。

母が70歳前の頃、父は以前から体調があまり良くなり、検査入院した所、3日後に先生から20日の命と診断。骨髄異形成で、あつという間の帰らぬ人となった。

（続）

光寿会の目々 266号☆



イラスト：1000

意思疎通がはかれなくなっている方が、こうやって身内の声に反応して、目をあけたり、話しかけようとしている姿に会うと、改めて、人の潜在意識の中にある「大切なもの」に触れた感じかして嬉しいものである。

「和」とは「不和」の悲しみなり

曾我量深

第65回

丸田善明

自然法爾

「じねんほうに」

昭和16年12月8日、日米開

戦を報ずるラジオを聞きながら、仏教僧・曾我量深は、

和とは不和なり

不和の悲しみなり

5月、パレスチナの開放を掲げる過激派組織ハマスとイスラエル間の戦闘でミサイルが飛ぶ交い、ガザ地区で多数の犠牲者が出た。ミャンマーでの国軍の暴発も留まるところを知らない。世界の人々は平和を望んでいるのに、なぜ、戦いは止まないのだろう。

今年も、和をもつて貴しとなす△と十七条憲法に宣言した聖徳太子の一四〇〇回忌に当たる。▽和△は日本人にとって至高の道徳律だが、この言葉は平和の中で編み出されたのではなく、血で血を洗う権力抗争をくぐって獲得されたことを忘れてはならない。

と揮毫したが、この▽悲△は「如来の悲しみ」ということであつたのだろう。日本人もまた、それ以前も以後も、▽和△を徹底することなしに、その場しのぎで「悲劇」を看過してきた。祖電先生と、リ憲法九条は聖徳太子の悲願ですね。△と語り合つた事を思い出している。

△前号の訂正△(光寿会での間違いです)

冒頭、「死」ではなく「花」でした。

△花にゆく 老いの歩みの遅くとも△ 虚子

おわりに

△おわりに△を振返つてみると、何と265回も思いを巡らせ書いてきたのかと、自分でも驚く。

子どもの頃、私の祖父や父は、本堂にお集まりの聴聞の方々を、お説教によって笑わせたり泣かせたり領かせたりできる姿を観ては、

「僕はこうなれないなあ」と自分の実力のなさに落胆したものだ。他者と比べて優劣の心で一喜一憂する私の幼き頃からの性。

けれど不思議と寺を継ぐ事は厭わず、寧ろお寺はじんごん大好きな場所となつていった。そこには、私の小さな心(煩惱)をも包み込み、浄化をもたらす教えがいつも存在していたからだと思つている。

※小さき自分を大きな世界が包み込む